

あさかの里だより 86号

発行：社会福祉法人郡山社会事業協会 あさかの里
〒963-8862 福島県郡山市菜根3丁目15番3号
TEL 024-939-3401 FAX 024-939-3491
E-mail asakanosato@ac.auone-net.jp



あさかの里まつり



新春もちつき会



~CONTENTS~



- P.2 令和元年10月台風19号の被害を受けて
- P.3 すまいる はこんなところ!! 日頃の活動などをご紹介します。
- P.4 歳時記 ~ 秋 から 冬 ~ / スタッフ学習会
- P.5 第7回ふくしま当事者研究ねっと交流会
- P.6 「はじめまして」新任スタッフ紹介します。

物品寄贈等の御礼 / スタッフ リレーコラム



令和元年10月台風19号の被害を受けて

令和元年10月6日、過去最大級の台風が発生。12日夜福島県へ接近、13日未明にかけて県内を通過、記録的な大雨となり、郡山市では東日本大震災を超える甚大な被害をもたらした。この台風の影響で、阿武隈川流域での多くの河川の氾濫で、幅広く堤防が決壊する等の被害が発生し、多くの方が避難。13日朝、阿武隈川流域の多くの家屋が床上浸水。小学校・クリーンセンター・星総合病院も床上浸水。中央工業団地全域が冠水。郡山駅ゆうゆう地下道冠水の為通行止め・JR在来線・福島交通バス等の交通網も被害を受け、日常生活がままならない状況が続きました。あさかの里事業所では、緊急連絡網により、職員と利用者全員の安否確認後、被災された方が数名おり、すぐに対応に当たりました。当初電話連絡がとれなかった方には、支援者間で情報収集し、福祉避難所の訪問や住まいを巡回し、安否確認をとりました。避難所へ誘導してくれた下宿の大家さん、総合福祉センター避難所で、24時間体制で支援した頂いた職員の方、そして自衛隊やボランティアの方々のおかげにより、4ヶ月後の現在、ようやく以前の様な日常生活事を過ごす事ができています。今後も、『もしも?』の時に備えて、大切な命が守れる様、災害に対する備えと、日頃から周りの人と助け合っていく事が、安全に身を守る事に繋がっていくのだと思います。

藤田川

逢瀬川

運瀬川

郡山駅

東部幹線

谷田川

笹原川

阿武隈川

日大通り

中央工業団地

あさかの里 暁紫舎

メンバーTさん: アパートは床上浸水。1ヶ月半の避難所での生活から、ようやく引越し。災害見舞金・義援金・給付金で何とかここ迄の生活を復旧する事が出来ました(^^)

自宅にいたSさん: エリアメールが一晩中鳴り響き、レベル5になり家族で避難。自宅1階が水没。水の力は凄い! 怖かった!!

東口ショッピングセンター

すまいるはこんなところ !! 紹介コーナー



すまいるのお仕事！

『すまいる』とは針生ヶ丘病院内のスペースにある就労継続支援B型の売店である。

ここで働いている利用者の皆さんは日々、お店の由来である笑顔をもっとに接客している。

お客様はお店に直接いらっしゃる方々の他にも、病院に入院されていてなかなか出歩けない方々もいる。そのようなお客様に対しては、お電話で注文を頂いてから商品を病棟まで配達するという方法をとっている。

また、お客様以外にも、業者さんと交渉したり、病院の看護師さんとやり取りを行う。

さらに病院内の空き缶やペットボトルの仕分け、段ボールの回収といった清掃の役割も担っている。



- お店の名前である『すまいる』(笑顔)をモットーに接客しています。
- 来店してくれたお客様がまた来たくなるような雰囲気作りを目指しています！
- 常に新鮮な気持ちで来店して頂けるように商品のラインナップが華やかになる様に心がけています。
- お客様を待たせることが無い様、常に商品の補充を実施しています。
- 季節の商品を取り入れ、四季を感じて頂ける様心がけております。



倉庫にある商品の在庫を確認して発注する様子。



病院内の空き缶、ペットボトルの仕分け作業の様子。



商品が梱包されていた段ボールを車に積んでいる様子。

利用者さんに聞いてみました！あなたにとっての『すまいる』とは？

- Iさん ☆安らぎの場所！！
- Sさん ☆失敗できて、成長できる場所。
- Wさん ☆居場所。すまいるにいと安心します。
- Tさん ☆居場所であり、リハビリのための原点。
- Sさん ☆社会との接点であり、自分らしくをモットーに働かせて頂いております。
お金も頂けて嬉しいです。



歳時記

秋～冬



ボウリング大会



クリスマス&
忘年会



もちつき会



スタッフ学習会 ～障害年金の基礎知識～



福島県社会保険労務士会が実施する発達支援セミナーのご協力をいただき、同会所属の社会保険労務士の方を講師として派遣して下さり、令和元年11月21日、あさかの里の事務所にて、学習会を行いました。

講習は、障害年金はどのような時に受けられるのか、初診日からどのくらい経ったら申請できるのか、申請にはどのような手続きが必要なのか等、障害年金の基礎の部分をお教えいただきました。

第7回ふくしま当事者研究ネット交流会

去る10月6日福島県立医科大学にて、第7回ふくしま当事者研究ネット交流会が行われました。

●当事者研究とは…

自分の(病気や障がいの)苦勞や症状、困ったことについて、他者の支援を得ながら改善を図っていく取り組みのこと。支援者や仲間のささえ、知恵など協力をもらいながら、日常の中で、出会う、それぞれが抱えている問題や課題について、「研究」という形で、今よりもっと良くする方法、課題に対しての対処法を考えて、実践していく取り組み。北海道浦河町のベテルの家での取り組みが有名。テレビでも再三取りあげられている。



●ふくしま当事者研究ネットとは…

平成15年に「正体不明の声ワークショップ」として発足。当事者・家族・治療者等が一体となり、正体不明の声(いわゆる幻聴)への対処法として学びきっかけとなった。その後、幻聴・妄想だけでなく、当事者が抱く日常の「苦勞」への対処法として「当事者研究」が普及し、会の名称を「ふくしま当事者研究ネット」へと発展的に改称し、精神障がい者の苦勞を分かち合い、共に生きる仲間づくりの輪が広がっていった。

精神障がい当事者が症状や服薬、人間関係など、自らの抱える生きづらさ(苦勞)について、「自分で自分を研究する」という視点をを用い、当事者が主人公となって、それまでの方法や取り組みとは異なるアプローチを見つけて「苦勞」を解決し、自分らしく生活しやすくなる方法を見つける自助プログラムの発展と普及を目的としている。

●～わたし松本ハウス賞とっちゃいました～



当日は、7名の方の研究発表があり、お笑いコンビ「松本ハウス」のお二人の公演もありました。統合失調症の当事者であるハウス加賀谷さんの病気や症状と付き合ってきた半生と、相方の松本キックさんの、加賀谷さんとの向き合い方、これまでの関係の歴史などについて、笑いを交えての公演で、当事者としての発病から現在までの病気との向き合い方などを大変わかりやすくお話してくださいました。またとても暖かい気持ちにもなりました。会場も大いに盛り上がっていました。



あさかの里の渡部友美さんが、『渡部友美の研究』という研究テーマでご自身の苦勞の研究を発表し、参加者の投票により、優秀な研究発表に贈られる「松本ハウス賞」に選ばれました。

初めて当事者研究に参加しました。大勢の中でお話してとても緊張しました。自分自身の研究の中で、普段の過ごし方、体調を崩した時の対処の仕方や、どんな体験をしたかなどをお話しました。最後に松本ハウス賞をいただきました。賞をいただいた時、びっくりしましたが、とても嬉しかったです。他の参加された皆さんのお話を聞いて、学ぶことや考えさせられることがたくさんありました。また松本ハウスのお二人のお話も聞き、人それぞれ苦勞したり、大変な思いをしているんだと、感心しました。大変なのは自分だけではないと改めて思いました。今回貴重な経験ができてよかったです。このような話す機会を与えてくださったスタッフの皆さま、応援してくださったり、支えてくださった皆さまには、とても感謝しています。また参加したいです。ありがとうございました。 渡部友美



(朝生)

カレーライス おいしくいただきました

株式会社GMクリエイション(カレーハウスCoCo壱番屋)様より、

キャンバスに、カレーライスのご提供がありました。

皆で大変おいしくいただきました。

ありがとうございました。





新任スタッフ紹介



キャンバス 安齋めぐみさん

昨年11月からキャンバスでお世話になって
います。初めての職場で不安もありますが
スタッフさんメンバーさんに支えられながら
日々頑張っております。
これからもよろしくお願ひします。



キャンバス 藤田知美さん

不安と失敗の日々ですがスタッフさん、
メンバーさんそして手作りお弁当の温
かさを支えにこれからも頑張りますの
で宜しくお願いします。

物品寄付の御礼

笹島菓子食品(株) サントリービバレッジサービス(株) 郡山ヤクルト販売(株)

紅食(株) 東北協同乳業(株) 酪王乳業(株)(株) 伊藤園 水上朋子 渡辺久美子

影山浩二 石塚菊子 加藤真由美 藤橋洋子 佐藤とも子 稲見和子 作本博子

ご協力、ご提供ありがとうございました(順不同 敬称略)

あさかの里スタッフリレーコラム

うちの子



うちの子はこげ茶色のポメラニアンで11才の女の子。名前はチョコです。
チョコと散歩しているときのことです。野球の朝練を終えた高校生たちが元気よく
「おはよ〜す!」と次々にキャップを取り挨拶をしてきました。私も気分よく挨拶を
返していると、「それ、くま?」と驚きの声をあげ、私の腕の中にいるチョコをジーっと見えています。たまらなく駆け寄り「はい、くまちゃんですよ」と彼らの前に見せつけました。するとひとり女の子がチョコを抱っこし「うわ〜かわいい、くまちゃんだ」と愛おしそうになでるとチョコがその子の顔をクンクンし、ペロペロとなめはじめました。一匹の犬を囲んで高校生たちが小っちゃな子どものように笑い戯れていました。暫くして私からチョコの正体を明かし、人間の年だともう60才にもなってることを話すと「うそっ!マジっしたらオレばあちゃん抱っこしてペロペロなめられてるの?!」と声を張り上げた。みんなでゲラゲラ大笑い。名残惜しそうにチョコを返してきて「やっぱり名前はチョコちゃんではなくくまちゃんにして」と言い「くまちゃんバイバイまたね」と列をなして去って行きました。汗臭い球児達の無邪気な笑顔に癒されたあさのひと時でした。うちの子のおかげで。 高橋 淑子

・・・次回は 堀米 美佐子さんです